

ブラザー記念病院
公的医療機関等 2025 プラン

平成 29 年 12 月策定

【自施設の基本情報】

- ・医療機関名:ブラザー記念病院
- ・開設主体:ブラザー健康保険組合
- ・所在地:名古屋市瑞穂区塩入町 11 番 8 号
- ・許可病床数:59 床
 - (病床の種別) 一般病床:30 床、療養病床:29 床
 - (病床機能別) 急性期:30 床、慢性期:29 床
- ・稼働病床数
 - (病床の種別) 一般病床:30 床、療養病床:29 床
 - (病床機能別) 急性期:30 床、慢性期:29 床
- ・診療科目:内科、外科、整形外科、婦人科、眼科、歯科、小児歯科、放射線科
- ・職員数:134 名(2017 年 4 月 1 日時点)
 - 医師: 3 名(常勤)、30 名(非常勤)
 - 看護職員: 42 名(常勤)、9 名(非常勤)
 - 専門職: 28 名(常勤)、12 名(非常勤)
 - 事務職員: 9 名(常勤)、1 名(非常勤)

【1 現状と課題】

① 構想区域の現状(名古屋・尾張中部構想区域)

<人口の見通し>

・名古屋医療圏は、県内人口の3割以上が集中しており、全国的にも大阪市医療圏、札幌医療圏に次いで3番目に人口が多い2次医療圏となっている。

・総人口は県全体と同様の推移で減少します。65歳以上は増加していき、県全体より増加率は高くなっている。

<医療費資源等の状況>

・病院数が多く、また、大学病院が2病院あり、救急救命センターも6か所整備されている。人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富である。

・DPC調査結果(DPC調査参加施設:24病院)によると、圏域内において、ほぼ全ての主要診断群の入院及び救急搬送実績があり、緊急性の高い傷病(急性心筋梗塞、脳卒中、重篤な外的障害)及び高齢者の発生頻度が高い疾患(成人肺炎・大腿骨骨折)の入院実績があり、病院数及び実績数が他圏域と比べ著しく多いことから、圏域内の急性期入院機能が充実していると考えられる。

・高度な集中医療が行われる特定入院料の病床については、平成28年3月現在、圏域内(18病院)において、救命救急入院料・特定集中治療室管理料(ICU)・新生児特定集中治療室管理料(NICU)・総合周産期特定集中治療室管理料(NFICU)・ハイケアユニット入院医療管理料(HCU)・新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)の届出がされている。

・平成25年度(2013年度)NDBデータに基づく特定入院料の名古屋医療圏の自域依存率は高い状況にあるが、脳卒中ケアユニット入院医療管理料(SCU)については尾張東部医療圏へ患者の流出がある。尾張中部医療圏の自域依存率は0%であり、主に名古屋医療圏及び尾張北部医療圏へ流出している。

<入院患者の受療動向>

・名古屋医療圏での入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にある。また、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多くみられる。

・尾張中部医療圏での入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期が非常に低くなっており、名古屋医療圏へ多くの患者が流出している。また、慢性期については、名古屋医療圏から多くの患者が流入している。

② 構想区域の課題

・大学病院が2病院あり、救急救命センターも6か所整備されている等、高度な医

療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。

・人口が多く、面積も広いため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要がある。

・回復期機能の病床を確保する必要がある。

③ 自施設の現状

・理念：みなさまの笑顔が私たちの幸せです。「確かな技術と温かい心」。

・基本方針：1. 良質な医療の提供

2. お客様が中心

3. 地域と共生

4. 働きがいのある病院

・特徴：健康保険組合が運営する病院であるので、組合員の皆様とご家族の方々はもちろんですが、幅広く地域住民の皆様にも多くご利用いただいている。

マルチスライスCTなどの最新の医療設備や全室個室の病床を整え、名古屋大学医局を中心とした連携をしており、特に消化器内科においては、胃・小腸・大腸疾患全てに対応できる各種内視鏡を取り揃えて早期発見・早期治療に取り組んでいる。

④ 自施設の課題

・救急医療は対応していないことや健保立であることから、地域での役割を担うというところまではできない。

【2 今後の方針】

- ① 地域において今後担うべき役割
 - ・現状の慢性期医療の提供体制は維持していく。
- ② 今後持つべき病床機能
 - ・現状のままとする。
- ③ その他見直すべき点
 - ・特になし

【3 今後の方針】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成 28 年度 病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	0		0
回復期	0		0
慢性期	59		59
(合計)	59		59

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017 年度	・自施設のあり方について協議	・本プラン策定	<p>集中的な検討を促進 二年間程度で</p> <p>第7期 介護保険 事業計画</p> <p>第七次医療計画</p> <p>第8期 介護保険 事業計画</p>
2018 年度	・地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	・地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意をとる	
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

・検討した結果、現状のままとする。

③ その他の数値目標について

＜医療提供に関する項目＞

・病床稼働率：一般病棟 86%、療養病棟 91%

＜経営に関する項目＞

・人件費率：50%未満

【4 その他】

特にありません。